

教科書の地形分類と地理院地図・地形分類（自然）の対照表

	教科書の分類		地形面の特徴	地理院地図・地形分類（自然）		
	小地形	微地形・場所		名称	説明	
堆積平野	沖積平野	谷底平野	—	相対的な標高の差が小さく一般的な地形面	氾濫平野	起伏が小さく、低くて平坦な土地。洪水で運ばれた砂や泥などが河川周辺に堆積したり、過去の海底が干上がったたりしてできる。
		氾濫原	自然堤防	相対的にやや高い地形面	自然堤防	現在や昔の河川に沿って細長く分布し、周囲より0.5～数メートル高い土地。河川が氾濫した場所に土砂が堆積してできる。
			後背湿地	相対的に低い地形面	後背低地・湿地	主に氾濫平野の中にあり、周囲よりわずかに低い土地。洪水による砂や礫の堆積がほとんどなく、氾濫水に含まれる泥が堆積してできる。
			三日月湖	古い河川の流路跡	旧河道	かつて河川の流路だった場所で、周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後に砂や泥などで埋められてできる。
		三角州	—	江戸時代・明治初期まで水面	旧水部	江戸時代または明治期から調査時までの間に海や湖、池・貯水池であり、過去の地形図などから水部であったと確認できる土地。その後の土砂の堆積や土木工事により陸地になったところ。
	扇状地	扇頂	相対的な標高の差が小さく一般的な地形面	扇状地	山地の谷の出口から扇状に広がる緩やかな斜面。谷口からの氾濫によって運ばれた土砂が堆積してできる。	
		扇中央	相対的にやや高い地形面	自然堤防	現在や昔の河川に沿って細長く分布し、周囲より0.5～数メートル高い土地。河川が氾濫した場所に土砂が堆積してできる。	
		扇端	古い河川の流路跡	旧河道	かつて河川の流路だった場所で、周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後に砂や泥などで埋められてできる。	
	台地	台地	—	高台	台地・段丘	周囲より階段状に高くなった平坦な土地。周囲が侵食により削られて取り残されてできる。
		河岸段丘	—	高台と低地の境界の崖	崖・段丘崖	台地の縁にある極めて急な斜面や、山地や海岸沿いなどの岩場。

- * この対照表は唯一のものではありません。
- * 地形分類は唯一のものではなく、利用目的（防災・建設など）に応じて変わります。
- * 一般に相対的に標高が低い場所や、水に覆われていた期間が長い場所は水害リスクが高くなります。
- * ここに掲載してある以外の地理院地図・地形分類（自然）は、次のWebサイトを参照してください。

